設定画面解説

設定画面から設定できる項目は次のとおりです。

共通項目（画面左側の表示）

共通項目（画面左側の表示）	
名称	TeraStation の名称を表示します。
ファームウェア	TeraStation のファームウェアバージョン番号を表示します。
IP アドレス	TeraStation の LAN ポート 1,2 の IP アドレスが表示されます。
ワークグループ	TeraStation のワークグループを表示します。
ディスク情報	TeraStation 内蔵のハードディスクの全容量、使用容量を表示します。
共有	[共有フォルダー] 選択時には、共有フォルダー数とディスク数を表示します。 [ユーザー / グループ] 選択時には、ユーザー数とグループ数を表示します。 [ネットワーク] 選択時には、DHCP の有効 / 無効とイーサネットフレームサイズを表示します。
I'm Here!	クリックすると TeraStation からメロディーが鳴ります。
ログアウト (画面上部右側に表示)	TeraStation の設定画面からログアウトします。

共有フォルダー

共有フォルダー		
共有フォルダー	共有フォルダー	[共有フォルダーの作成] をクリックすると新規共有フォルダー追加画面になります。 共有フォルダー名をクリックすると共有フォルダー情報編集画面になります。 共有フォルダーを選択して [削除] をクリックすると共有フォルダーを削除します。 ※ [検索] に文字を入力するとフォルダー名の頭文字と一致する候補が表示されます。表示された候補をクリックすると選択したフォルダーが選択された状態となります。 ※ [全ての共有フォルダー内のごみ箱を空にする] をクリックすると、ごみ箱内のデータを削除します。

<table>
<tr><td rowspan="8">共有フォルダー＞新規共有フォルダー
共有フォルダー設定画面で[共有フォルダーの作成]をクリックすると表示されます。</td><td>他の共有フォルダー設定を流用</td><td>既存の共有フォルダーの設定を流用したい場合、流用元の共有フォルダーを選択します。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダー名</td><td>共有フォルダーの名称入力します。
※ UTF-8 換算で 27 bytes まで入力できます。
※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用できます。
※先頭文字に記号を使用することはできません。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダーの説明</td><td>共有フォルダーの説明を入力します。
※ UTF-8 換算で 75 bytes まで入力できます。
※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、半角 スペースが使用できます。
※先頭文字に記号を使用することはできません。</td></tr>
<tr><td>ディスク領域</td><td>共有フォルダーを作成するハードディスク領域を選択します。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダー属性</td><td>共有フォルダーを読取専用にするか書込可能にするか選択します。</td></tr>
<tr><td>ごみ箱</td><td>設定された共有フォルダー、usbdisk の中のファイルを削除すると、共有フォルダー内に[trashbox] フォルダーが自動作成され、ファイルは移動され ます。
※ [trashbox] にはディレクトリ情報が保持されたまま移動されます。
※ [trashbox] フォルダーは、TeraStation の共有フォルダー、TeraStation に接続した USB ハードディスクにそれぞれ一つずつ設定ができます。
※ TeraStation に接続した USB ハードディスクにおいてゴミ箱機能を使用するためには、EXT3、XFS、FAT32 フォーマットである必要があります (NTFS、HFS+ フォーマットの場合は、ファイル削除ができないため)。
※ AFP 接続時は使用できません。
※ FTP 接続時は使用できません。</td></tr>
<tr><td>公開先</td><td>共有フォルダーの公開先を選択します。
<table>
<tr><td>公開先</td><td>説明</td></tr>
<tr><td>Win/MacOS(SMB)</td><td>Windows パソコンからの接続、MacOS からの SMB 接続での接続の可否を設定できます。</td></tr>
<tr><td>MacOS(AFP)</td><td>MacOS からの AFP（Appletalk）での接続の可否 を設定できます。</td></tr>
<tr><td>FTP</td><td>FTP 接続時操作できるフォルダーの可否を設定できます。
※あらかじめ［ネットワーク］-［ネットワーク］-［ネットワークサービス］で FTP を使用するよう設定が必要です。</td></tr>
<tr><td>バックアップ</td><td>TeraStation のバックアップ機能のバックアップ先として本製品を使用する場合にチェックをつけます。</td></tr>
<tr><td>SFTP</td><td>SFTP で接続するときに選択します。</td></tr>
</table>
※［Win/MacOS(SMB)］、［MacOS(AFP)］、［FTP］［SFTP］のチェックをはずし、［バックアップ］にのみチェックを入れると、バックアップ元を設定した TeraStation からしか見えなくなり、バックアップ時のセキュリティが高くなります（逆にバックアップ先のフォルダーを Windows パソコンから見たい場合は［Win/MacOS(SMB)］にチェックを入れないと読み出すことができません）。</td></tr>
<tr><td>フォルダー属性</td><td>[隠し共有 (SMB のみ)] を選択した場合、設定した共有フォルダーは見えなくなります。
※公開先 [MacOS(AFP)][FTP][SFTP] のチェックボックスにチェックマークが表示されていると、[隠し共有] は選択できません。
※隠し共有にした共有フォルダーを開くには、[ファイル名を指定して実行] で名前に ¥¥TeraStation 名 ¥ 共有フォルダー名 $¥　と入力してください。
例：TeraStation 名 =TS-VL001、共有フォルダー名 =share の場合、 ¥¥TS-VL001¥share$¥ となります。
[Windows バックアップ] を選択した場合、Windows Server バックアップ機能のバックアップ先として本製品を使用することができます。
※ [公開先] で［Win/MacOS(SMB)］にチェックをつけていないと選択できません。
※チェックをつけるとクオータ警告容量以上の書き込みができなくなります。</td></tr>
</table>

共有フォルダー＞新規共有フォルダー 共有フォルダー設定画面で [共有フォルダーの作成] をクリックすると表示されます。	バックアップ公開パスワード	ネットワーク経由で他の TeraStation から本製品にバックアップするとき、誤ってバックアップ先に選択されないようパスワードを設定することができます。 ※半角英数字とハイフン（-)、アンダーバー（_）を UTF-8 換算で 8 bytes まで入力できます。まで設定が可能です。 ※ 1 文字目にハイフン（-）を使用することはできません。
	オフラインファイル	オフラインファイル機能を設定します。 [オフラインファイル 無効] オフラインファイル機能を使用しません。 [ドキュメントの手動キャッシュ] オフライン機能を使用します。オフラインで使用するファイルを自分で選択する必要があります。 [ドキュメントの自動キャッシュ] オフライン機能を使用します。開いたファイルをローカルにキャッシュしてオフラインで使用できるにします。以前のファイルで同期が取れていないものは自動的に削除され、新しいものに置き換えられます。 [プログラムとドキュメントの自動キャッシュ] オフライン機能を使用します。開いたファイルをローカルにキャッシュしてオフラインで使用できるにします。以前のファイルやネットワークから実行されるアプリケーションで同期が取れていないものは自動的に削除され、新しいものに置き換えられます。
	TeraSearch	共有フォルダーを TeraSearch 機能でインデックス作成対象にしたいときは、[インデックス作成対象にする] をクリックしチェックマークを表示させ、[保存] をクリックします。
アクセス制限 共有フォルダー作成画面で［アクセス制限］をクリックすると表示されます。	アクセス制限	アクセス制限機能を使用します。 [追加] をクリックし、公開する (アクセスを許可する) ユーザー名、グループ名を選択し、[追加] をクリックします。 ※ユーザーまたはグループを選択し、[削除] をクリックするとアクセス制限に関してユーザー、グループのアクセス登録が削除されます。 ※ AFP 接続時、FTP/FTPS/SFTP 接続時は、ユーザー単位のアクセス制限のみ設定が可能です。
DFS 機能 [設定変更] をクリックすると設定は変更できます。	DFS	Distributed File System(DFS) 機能を使用するかを選択します。
	DFS ルートに DFS リンクを設定する	DFS ルートに DFS リンクを設定するかを選択します。 DFS ルートに DFS リンクを設定することで、DFS ルートが通常の共有フォルダーのように表示 / 操作することができます。
	DFS ルートフォルダー名称	DFS ルートフォルダーの SMB 上での表示名称を入力します。 ※既に登録済みの共有フォルダー名は使用できません。 ※ UTF-8 換算で 27 bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用できます。 ※先頭文字に数字や記号を使用することはできません。
DFS リンク	リンクを追加する	リンク先の共有フォルダー名、リンク名、ホスト名を入力します。 SMB による名前解決が可能である環境の場合、ホスト名を用いた UNC を利用することができますが、名前解決ができない場合は IP アドレスを用いた UNC を入力する必要があります。
	リンクを削除する	選択した DFS リンクの設定を削除します。
ダイレクトコピー [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	ダイレクトコピー保存先	ダイレクトコピー保存先の共有フォルダーを変更することができます。
TeraSearch [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	TeraSearch	TeraStation の TeraSearch 機能 (テキスト検索) を使用するときは [使用する] を選択します。 [インデックス更新時間] は、インデックスを更新する時間を指定できます。 [今すぐインデックスを更新する] をクリックするとすぐにインデックスを更新します。

ユーザー / グループ

<table>
<tr><th colspan="3">ユーザー / グループ - ユーザー</th></tr>
<tr><td>ユーザー</td><td>ユーザー</td><td>ユーザー名、ユーザーID、ユーザーの説明、プライマリーグループを表示します。[ユーザーの作成]をクリックすると新規ユーザー作成画面になります。ユーザー名を選択して、[ユーザーの編集]をクリックするとユーザー編集画面になります。ユーザーを選択して [削除] をクリックするとユーザーを削除します。認証設定で [外部の SMB サーバーに認証を委任する] を選択していた場合に、[ローカルユーザーを外部認証ユーザーへ変換する] をクリックすると、TeraStation で登録したユーザーを外部の SMB サーバーの認証ユーザーに変換することができます。
[guest] を選択して [使用する][使用しない] をクリックすると [guest] の有効 / 無効を設定できます。
※ [検索] に文字を入力するとユーザー名の頭文字と一致する候補が表示されます。表示された候補をクリックすると選択したユーザーが選択された状態となります。
※出荷時設定では、[admin]、[guest] が設けられています。削除はできません。[guest] は無効にすることができます。
※ドメインでネットワークに参加しているときは、上記画面に [ドメイン ユーザー一覧] が追加表示されます。
※ [CSV 形式のデータを入力] では、ユーザー情報 (CSV 形式) を一括で取り込むことができます。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">ローカルユーザー＞新規ユーザー
ユーザー画面で［ユーザーの作成］をクリックすると表示されます。</td><td>ユーザー名</td><td>TeraStation に登録するユーザー名を入力します。
※ UTF-8 換算で 20 bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。
※半角英数文字、-(ハイフン)、_(アンダーバー)、.(ドット)、!、#、&、@、$、*、^、% が使用できます。
※先頭文字に記号を使用することはできません。
※ TeraStation に登録するユーザーのユーザーパスワードは、Windows 98SE/98/95 をお使いの方は UTF-8 換算で 15 bytes 以上にしないでください。MacOS をお使いの方は UTF-8 換算で 9 bytes 以上にしないでください。TeraStation の共有フォルダーにアクセスできなくなります。</td></tr>
<tr><td>ユーザー ID</td><td>ユーザー ID が空欄の場合、自動的にユーザー ID が割り当てられます。クオータ機能を使用するときは、手動で 1000 ～ 1999 の間の番号を他のユーザーと重複しないよう設定してください。</td></tr>
<tr><td>ユーザーの説明</td><td>ユーザーの説明を入力します。
※ UTF-8 換算で 75 bytes まで入力できます。
※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、半角ス ペースを使用できます。
※先頭文字に記号、半角スペースを使用する ことはできません。
※追加したユーザーは自動的に［hdusers］グループに所属します。所属 を他のグループに変更したいときは、グループ設定から行ってください。</td></tr>
<tr><td>パスワード</td><td>TeraStation のアクセスに必要なパスワードを入力します。
※ UTF-8 換算で 20 bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。
※半角英数文字、-(ハイフン)、_(アンダーバー)、@、!、#、$、%、&、'、(、)、*、+、,、.、/、;(セミコロン)、<、>、=、?、[、]、^、{、}、|(パイプ)、~(チルダ) が使用できます。
※先頭文字に記号（アンダーバーを除く）を使用することはできません。
※ TeraStation に登録するユーザーのユーザーパスワードは、MacOS をお使いの方は半角英数 9 文字以上にしないでください。TeraStation の共有フォルダーにアクセスできなくなります。</td></tr>
<tr><td>確認用パスワード</td><td>確認のため再度入力します。</td></tr>
<tr><td>プライマリグループ</td><td>複数のグループに所属していた場合、どのグループをメインとするか選択します。グループにクオータ機能による容量制限が設定されていた場合、ここで選択したグループの容量制限となります。</td></tr>
<tr><td>ユーザークオータ</td><td>クオータ機能（ユーザー単位で、利用可能な容量を制限する機能）を使用する場合は、[設定する]をクリックし、チェックマークを表示させます。</td></tr>
<tr><td>クオータ警告容量</td><td>ユーザークオータ定めた容量を超えそうなとき、警告をメールで通知する容量（GB 単位）を設定します。</td></tr>
<tr><td>クオータ容量</td><td>利用可能な容量（GB 単位）を設定します。
※クオータ機能は、使用可能容量の制限のみをおこないます。それぞれのユーザーが使用している容量は確認できませんので、各自にて管理してください。 なお、所有者の確認は、各ファイルやフォルダーのプロパティ画面から、［セキュリティ］タブ　－　［詳細設定］ボタンにて新たなウィンドウを開き、［所有者］タブにて確認することができます（所有者の確認手順は、OS ごとに異なります。上記は Windows XP の場合の例です）。</td></tr>
</table>

ドメインユーザー	ドメインユーザー	NT ドメイン、ActiveDirectory ドメインに参加している場合にドメインユーザーの一覧が表示されます。
ドメイングループ	ドメイングループ	NT ドメイン、ActiveDirectory ドメインに参加している場合にドメイングループの一覧が表示されます。
外部認証ユーザー一覧	外部認証ユーザー一覧	［ネットワーク］―［ワークグループ / ドメイン］―［認証設定］で［外部の SMB サーバーに認証を委任する］［ユーザーの自動登録を有効にする］が選択され、ユーザーが自動登録されているときは自動登録されたユーザーが一覧で表示されます。 ユーザーを選択し、［外部認証ユーザーの削除］をクリックすると、自動登録されたユーザーを削除することができます。

ユーザー / グループ - グループ		
グループ	グループ	グループ名、グループ ID、グループの説明を表示します。 [グループの作成] をクリックすると新規グループ作成画面になります。 グループ名を選択して、[グループの編集] クリックするとグループ情報編集画面になります。 グループを選択して [削除] をクリックするとグループを削除します。 ※ [検索] に文字を入力するとグループ名の頭文字と一致する候補が表示されます。表示された候補をクリックすると選択したグループが選択された状態となります。
ローカルグループ＞新規グループ グループ画面で［グループの作成］をクリックすると表示されます。	グループ名	グループの名称を入力します。 ※ UTF-8 換算で 20 bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。 ※ -(ハイフン)、_(アンダーバー)、.(ドット) 以外の記号は使用できません。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	グループ ID	グループ ID が空欄の場合、自動的にグループ ID が割り当てられます。クオータ機能を使用するときは、手動で 1000 ～ 1999 の間の番号を他のグループと重複しないよう設定してください。
	グループの説明	グループの説明を入力します。 ※ UTF-8 換算で 75 bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、半角スペースが使用できます。 ※先頭文字に半角スペースを使用することはできません。
	グループクオータ	クオータ機能（グループ単位で、利用可能な容量を制限する機能）を使用する場合は、[設定する] をクリックし、チェックマークを表示させます。
	クオータ警告容量	グループクオータ定めた容量を超えそうなとき、警告をメールで通知する容量（GB 単位）を設定します。
	クオータ容量	利用可能な容量（GB 単位）を設定します。 ※クオータ機能は、使用可能容量の制限のみをおこないます。それぞれのグループが使用している容量は確認できませんので、各自にて管理してください。 なお、所有者の確認は、各ファイルやフォルダーのプロパティ画面から、［セキュリティ］タブ　―　［詳細設定］ボタンにて新たなウィンドウを開き、［所有者］タブにて確認することができます（所有者の確認手順は、OS ごとに異なります。上記は Windows XP の場合の例です）。
ローカルユーザー / グループメンバー	ローカルユーザー	グループに所属させるユーザー名を選択し、[追加] をクリックすると、選択したユーザーをグループメンバーとして追加します。 ※ドメインコントローラーより取得したドメインユーザーはグループに所属させることはできません。
	グループメンバー	グループに登録しているユーザーが表示されます。登録しているユーザーを選択して、[削除] をクリックするとグループから登録を解除できます。

ネットワーク

ネットワーク		
IP アドレス設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。 ※ LAN ポート 2 に接続した LAN ケーブルはイーサネット 2 で設定します。	DHCP	ネットワーク内に DHCP サーバーがあるとき、DHCP クライアント（IP アドレス自動割り当て）機能を利用できます。
	IP アドレス	[DHCP] を「使用しない」に設定したときに IP アドレスを設定します。
	サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。
	デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイが存在するとき、IP アドレスで指定します。
	優先 DNS サーバーアドレス	優先する DNS サーバーの IP アドレスで指定します。
	代替 DNS サーバーアドレス	代替の DNS サーバーの IP アドレスを指定します。
イーサネットフレームサイズ [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。 ※ LAN ポート 2 に接続した LAN ケーブルはイーサネット 2 で設定します。	イーサネットフレームサイズ	一回で転送できるデータの最大サイズを変更して転送効率を向上させることができます。 ・1518 バイト（デフォルト）　出荷時には 1518 bytes に設定されています。 ・4102 バイト（Jumbo Frame）4102 bytes で転送を行います。 ・7422 バイト（Jumbo Frame）7422 bytes で転送を行います。 ・9694 バイト（Jumbo Frame）9694 bytes で転送を行います。
ネットワークサービス	ネットワークサービス	**Web 設定画面 (通常)：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、TeraStation の Web 設定画面を表示することができなくなります。 **Web 設定画面 (SSL 使用)：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、TeraStation の Web 設定画面を SSL を使用しての表示ができなくなります。 **SMB：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、SMB 接続で TeraStation にアクセスすることができなくなります。 **AFP：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、共有フォルダー設定の公開先において [AFP] を追加しても Macintosh から AFP 接続できなくなります。 **FTP：**初期設定では FTP 機能を「使用しない」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、共有フォルダー設定の公開先において [FTP] を追加しても FTP 接続できなくなります。FTP 機能を使用するには、[使用する] に設定を変更します。 **バックアップ：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、TeraStation をバックアップ / レプリケーション先として使用することができなくなります。 **NAS Navigator による検出：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、NAS Navigator2 で検索したときに本製品が見つからないようになります。 ※ファームウェアをアップデートするときや、PC 連動電源機能を使用するとき、NAS 設定保存・復元ツールを使用するときは、[使用する] を選択してください。 **NFS：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、NFS クライアントから TeraStation にアクセスすることができなくなります。 **SFTP：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、SFTP 接続で TeraStation にアクセスすることができなくなります。 **Web アクセス：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、Web アクセス機能で TeraStation にアクセスすることができなくなります。 **TeraSearch：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、TeraSearch 機能を使用することができなくなります。
	SSL キーの編集	SSL のサーバ証明書と秘密鍵を更新するときに設定します。

ポートトランキング [設定変更]をクリックすると設定を変更できます。	ポートトランキング	TeraStation に LAN ケーブル 2 本接続してポートトランキングとして使用するときに設定します。選択できる項目は次のとおりです。 無効：ポートトランキングを使用しません。 Round-robin policy： 耐障害性と負荷バランシングに対するラウンド ロビン ポリシーで設定します。 Active-backup policy： 耐障害性に対するアクティブバックアップポリシーで設定します。 XOR policy： 耐障害性と負荷バランシングに対する XOR (exclusive-or) ポリシーで設定します。 Broadcast policy： 対障害性用のブロードキャストポリシーで設定します。 Dynamic link aggregation： IEEE 802.3ad ダイナミックリンク集合ポリシーで設定します。 Adaptive transmit load balancing(TLB)： 対障害性とロードバランシング用の送信ロードバランシング (TLB) ポリシーで設定します。
ワークグループ/ドメイン [設定変更]をクリックすると設定を変更できます。	ネットワーク参加方法	ネットワークに参加する方法（ワークグループまたは NT ドメイン、ActiveDirectory ドメイン）を選択します。通常は［ワークグループ］を選択します。ドメインで参加するには Microsoft ネットワークドメインの設定を知っている必要があります。詳しくはネットワーク管理者にご確認ください。
	ワークグループ	ネットワーク参加方法にワークグループを選択したとき、Windows 搭載パソコン（Microsoft ネットワーククライアント）で TeraStation を所属させるグループ名を入力します。 ※ UTF-8 換算で 23 bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドット）が使用できます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	WINS サーバーアドレス	WINS サーバーを利用する方は WINS サーバーの IP アドレスを入力してください。
	NT ドメイン名 (NetBIOS 名)	ネットワーク参加方法に NT ドメインを選択したとき Microsoft ネットワークのドメイン名を入力します。 ※ UTF-8 換算で 23 bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドット）が使用でき ます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	NT ドメインコントローラー名 (コンピューター名)	ドメインコントローラーのホスト名を入力します（ネットワーク参加方法で NT ドメインを選択時のみ）。ドメインでネットワークに参加させるときは、あらかじめドメインコントローラーに TeraStation の名称と同一名のコンピューターアカウントを登録しておく必要があります。 ※ UTF-8 換算で 63 bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用できます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	ActiveDirectory ドメイン名（NetBIOS 名）	ネットワーク参加方法に ActiveDirectory ドメインを選択したとき ActiveDirectory ドメイン名（NetBIOS 名）入力します。 ※ UTF-8 換算で 23 bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドット）が使用でき ます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	ActiveDirectory ドメイン名 (DNS 名)	ネットワーク参加方法に ActiveDirectory ドメインを選択したとき ActiveDirectory ドメイン名（DNS 名）入力します。 ※ UTF-8 換算で 255 bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。 ※半角英数文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドット）が使用できます。
	Administrator パスワード	Administrator（管理者）のパスワードを入力します。 ※ [ネットワーク参加方法] で「NT ドメイン」または「ActiveDirectory ドメイン」を選択している場合、入力必須です。 ※ TF-8 換算で 256 bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用できます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。

ワークグループ/ドメイン [設定変更]をクリックすると設定を変更できます。	ActiveDirectoryドメインコントローラー名（コンピューター名）	ActiveDirectory ドメインコントローラーのホスト名を入力します（ネットワーク参加方法で ActiveDirectory ドメインを選択時のみ）。 ※ UTF-8 換算で 63 bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用でき ます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	Administratorユーザー名	Administrator（管理者）のユーザー名を入力します。 ※ [ネットワーク参加方法] で「NT ドメイン」または「ActiveDirectory ドメイン」を選択している場合、入力必須です。 ※ UTF-8 換算で 256 bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドット）が使用できます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	認証設定	[ネットワーク参加方法] に [ワークグループ] を選択したときに TeraStation へのアクセスを許可するユーザー認証方法を選択します。 [TeraStation のローカルユーザーのみ認証する] 通常はこちらを選択します。 TeraStation 設定画面で登録したユーザー（※）のみアクセスを許可します。 ※ TeraStation に登録するローカルユーザーのユーザー名・パスワードは、Windows ログオン時のユーザー名・パスワードと一致させてください。 [外部の SMB サーバーに認証を委任する] TeraStation にアクセスするユーザーの権限を認証サーバーで連携をとり、TeraStation へアクセス許可をさせたいときに選択します。 認証サーバーと連携するには、Microsoft ネットワークを知っている必要があります。詳しくはネットワーク管理者にご確認ください。 [認証サーバーとして Windows ドメインコントローラーを使用する] （TeraStation 自体はドメインには参加しませんが）ドメインコントローラーに対してユーザー認証を行いたいときに選択します。 ※ Windows ドメインコントローラーを外部の SMB 認証サーバーとして指定する場合は、TeraStation のワークグループ名を Windows ドメインコントローラーのドメイン名と一致させる必要があります。 [ユーザーの自動登録を有効にする] 認証サーバーから許可を受けたユーザーを TeraStation の認証ユーザー一覧へ自動的に登録する場合に選択します。 使用例 : 自動登録で一定期間ユーザーを取得してから、自動取得を無効にすることで認証テスト用共有フォルダーにアクセスしたユーザーが勝手に増えてしまうことを防ぐことができます。 [認証テスト用共有フォルダーを使用する] 認証サーバーへ登録してあるユーザーがアクセスできるフォルダーを認証テスト用フォルダーとして使用します。
	認証サーバー名または IP アドレス	認証方法で［外部の SMB サーバーに認証を委任する］を選択した際に、ユーザー認証で用いる外部のサーバーをサーバー名またはサーバーの IP アドレスで指定します。 ※ AFP 接続や FTP/FTPS/SFTP 接続時は IP アドレスで指定してください。サーバー名では認証できないことがあります。 ※別セグメント（ルータ越えのネットワークなど）のサーバーを指定する際は IP アドレスを 入力してください。

ワークグループ/ドメイン [設定変更]をクリックすると設定を変更できます。	名称	認証方法で［外部の SMB サーバーに認証を委任する］、［ユーザーの自動登録を有効にする］、［認証テスト用共有フォルダーを使用する］を選択した際に、認証テスト用共有フォルダーのフォルダー名を指定します。認証テスト用共有フォルダーを開いたユーザーを自動的に TeraStation のユーザーとして登録することができます。 ※認証テスト用共有フォルダーは 2 個以上作ることはできません。 ※自動登録されたユーザーは「hdusers」グループに所属します。 ※認証テスト用共有フォルダー名に既存の共有フォルダー名は使用 できません。 ※ UTF-8 換算で 27 bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用でき ます。 ※先頭文字に数字や記号を使用することはできません。 ※ AFP 接続、FTP/FTPS/SFTP 接続では、認証サーバー連携でユーザー情報を取得することはできません。
NFS [設定変更]をクリックすると設定を変更できます。	NFS サービス	NFS(Network File System) クライアント (UNIX 系 OS) から TeraStation の共有フォルダーへアクセスしたいときは、[使用する] を選択します。 公開先ネットワークアドレスと公開先サブネットマスクを入力してアクセス制限することもできます。 NFS 動作モードでは､「ユーザーモード」または「カーネルモード」を選択します。レプリケーション機能を使用する場合は、ユーザーモード、VMware ESX/ESXi で使用する場合はカーネルモードを設定してください。
	NFS フォルダー設定	NFS として公開するフォルダーをクリックします。クリックしたフォルダーの NFS パスが表示されます。NFS クライアントからアクセスするときは、NFS は有効を選択ください。
	NFS クライアント設定	[クライアントの追加] をで NFS クライアント (UNIX 系 OS など) の追加を行います。追加するには、NFS クライアントの IP アドレスとホスト名を入力します。 [クライアントの削除] で選択したクライアントを削除することができます。

Web サーバー [設 定 変 更] を ク リックすると設定を変更できます。	Web サーバー機能	Web サーバーを使用するかどうかを設定します。
	ポート番号	Web サーバーのポート番号を設定します。デフォルトのポート番号は、81 となります。
	Web サーバー公開フォルダー	Web サーバーで公開する共有フォルダーを選択します。 - (Web サーバー公開フォルダー)/htdocs/ コンテンツを格納するフォルダーです。 HTML ファイルや PHP スクリプトの設置場所としてお使いください。 (例) Web サーバー公開フォルダーを「web」という名称の共有フォルダーに設定した場合、 SMB 経由で \\(TeraStation 名称)\web\htdocs 以下に HTML ファイルや PHP ファイルなどを設置する。 - (Web サーバー公開フォルダー)/cgi-bin/ Perl スクリプト格納フォルダーです。 Perl スクリプトの設置場所としてお使いください。 このフォルダーに配置すべきスクリプト言語は Perl のみです。また拡張子は .pl または .cgi である必要があります。 CGI を動作させる場合は、"cgi-bin" フォルダーなど指定されたフォルダーの中に、以下の拡張子のファイルをコピーします。 ※対応 CGI ファイルと拡張子、配置パスの関係について (言語)Perl、(拡張子).cgi 配置パス：Web サーバー公開フォルダー内の "cgi-bin" フォルダーのみ (言語)Perl、(拡張子).pl 配置パス：Web サーバー公開フォルダー内の "cgi-bin" フォルダーのみ (言語)PHP、(拡張子).php 配置パス：Web サーバー公開フォルダー内 - (Web サーバー公開フォルダー)/log/ ログファイルが格納される (Web サーバーのログが出力される) フォルダーです。 http://TeraStation の IP アドレス : ポート番号 / (例 : http://192.168.11.150:81/) にアクセスした際に、phpinfo(PHP インタプリタの設定情報) が表示されれば、Web サーバー機能は正しく機能しています。
	php.ini	PHP 言語インタプリタの設定を変更することができます。 ※この機能は、PHP スクリプトに詳しい方を対象としています。十分な知識をお持ちでない場合、編集されないことをおすすめします。 ※ php.ini を編集すると、PHP スクリプトが正しく動作しない場合が有ります。そのような場合は、" デフォルトに戻す " ボタンにて、デフォルトに戻してください。 インポート：php.ini を Web 設定画面にアクセスしているパソコンからインポートすることができます。 直接編集：テキストボックス内に表示されている php.ini の内容を直接編集することができます。

<table>
<tr><td rowspan="4">MySQL サーバー設定
[設 定 変 更] を ク リックすると設定を変更できます。</td><td>MySQL サーバー機能</td><td>MySQL サーバーを使用するかどうかを設定します。</td></tr>
<tr><td>ポート番号</td><td>MySQL サーバーのポート番号を設定します。</td></tr>
<tr><td>データベース保存フォルダー</td><td>MySQL のデータベースを保存する共有フォルダーを選択します。</td></tr>
<tr><td>phpMyAdmin を開く</td><td>MySQL データベースの管理を行うことができる、phpMyAdmin を開きます。
phpMyAdmin を使用するには、Web サーバー機能を有効にする必要があります。
phpMyAdmin にログインするための phpMyAdmin 管理用ユーザー名 / パスワードは、出荷時には以下のように設定されています。
ユーザー名 : admin
パスワード : password
※ phpMyAdmin 管理用ユーザー名 / パスワードは、phpMyAdmin にて変更することができます。
※ phpMyAdmin 管理用ユーザー名 / パスワードは、TeraStation 管理者ユーザー名 / パスワードとは連動していません。それぞれ、独立して機能しますので、ご注意ください。
※ phpMyAdmin の使用方法については、弊社ではサポートしません。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">SNMP 設定
[設 定 変 更] を ク リックすると設定を変更できます。</td><td>SNMP 機能</td><td>SNMP 機能を使用するかどうかを設定します。</td></tr>
<tr><td>SNMP community 名</td><td>SNMP の community 名を入力します。</td></tr>
<tr><td>trap 通知</td><td>TeraStation で発生しているエラーや情報を trap として受け取る場合、[使用する] を選択します。</td></tr>
<tr><td>trap 通知 community 名</td><td>trap として情報を受け取るときの community 名を設定します。</td></tr>
<tr><td>trap 通知先 IP アドレス</td><td>SNMP マネージャー（監視する側）の IP アドレスを入力します。</td></tr>
</table>

システム

システム - 基本		
名称設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	名称	ネットワーク上で TeraStation を認識する名前を入力します。 UTF-8 換算で 15 bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。 半角英数文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）を使用できます。 先頭文字に記号を使用することはできません。
	説明	ネットワーク上の TeraStation の名称の補足説明を入力します。 UTF-8 換算で 75 bytes まで入力できます。 半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、半角スペースを使用できます。 先頭文字に半角スペースを使用することはできません。 Windows でのみ表示されます。Macintosh では表示されません。
時刻設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	NTP 機能	ネットワークを通じて時刻を修正する NTP 機能を使用する場合は、[自動] を選択します。 手動で時刻を設定する場合は [手動] をします。
	NTP サーバーアドレス	NTP サーバーの DNS 名 (FQDN) または IP アドレスを入力します。 入力例：ntp.jst.mfeed.ad.jp　または　192.168.11.123 [デフォルトの NTP サーバー (ntp.jst.mfeed.ad.jp) を使用する] を選択すると ntp.jst.mfeed.ad.jp を NTP サーバーとして指定します。
	NTP 更新頻度	NTP サーバーにアクセスする（時間を調整する）タイミングを [1 日に 1 回]、[1 週間に 1 回]、[3 時間に 1 回]、から選択します。 プロキシサーバー等を通して NTP サーバーへアクセスする場合、ネットワーク環境によってはプロキシサーバー外部の NTP サーバーへのアクセスが失敗することが あります。
	タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。 日本国内ではタイムゾーンを [(UTC+09:00 大阪、札幌、東京)] 以外に設定を変更しないでください。
	年月日	年月日を表示します。数字を入力して年月日を変更できます。
	時刻	時刻を表示します。数字を入力して時刻を変更できます。 [設定中の PC から時刻 (またはタイムゾーン) を取得] をクリックすると、パソコンの時計から時刻 (またはタイムゾーン) を取得します。 TeraStation 内蔵の時計は長期間使用すると時間がずれることがあります。NTP 機能で自動的に修正することをおすすめします。
言語設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	表示言語	使用する言語を選択します。 表示言語は、「日本語 (Japanese)」でお使いください。本製品では、日本語以外の言語での使用はサポートしておりません。
	Windows クライアント言語	Windows クライアントで使用する言語を選択します。 Windows クライアント言語は、「日本語 SJIS(CP932)」でお使いください。本製品では、日本語以外の言語での使用はサポートしておりません。

システム - ディスク		
ディスク	ディスクチェック	TeraStation に内蔵のハードディスクおよび USB コネクターに増設したハードディスクをチェックします。使用している容量によってチェックに必要な時間は異なります（数十分間〜数十時間）。 ※バックアップを設定しているときは、ディスクチェックは実行できません。 ※ディスクチェック中はファイル共有サービスが停止します。 Mac OS から接続中に、停電など正常な手段で接続が解除できなかった場合、Mac OS が作成するデータベース等が破損し、接続できなくなることがあります。このようなときは［Mac OS の固有情報を削除］を選択し、ディスクチェックを実行してください。下記のファイルが全て（サブディレクトリを含む）を削除され、接続できるようになることがあります。 ・.AppleDB ・.AppleDesktop ・.AppleDouble ・TheVolumeSettingsFolder ・Network Trash Folder ※ディスクチェックを実行する前に本 TeraStation が他の TeraStation のバックアップデバイスとして設定されていないことを確認して下さい。バックアップデバイスとして設定されている場合はディスクチェックを実行しないでください。 ※以下のハードディスクはディスクチェックをすることができません。 ・NTFS 形式でフォーマットされた USB ハードディスク ・HFS+ 形式でフォーマットされた USB ハードディスク ※ FAT32 形式でフォーマットされた 1TB 以上の USB ハードディスクは、ディスクチェックに非常に長い時間がかかります。このような USB ハードディスクをチェックしたいときは、Windows 搭載パソコンに接続して OS のエラーチェック機能でご確認することをおすすめします。

<table>
<tr>
<td>ディスク</td>
<td>ディスクフォーマット</td>
<td>
TeraStation および USB コネクターに増設したハードディスクをフォーマットします。フォーマットを実行すると、データは全て消去されます。大切なデータを失うことのないようご注意ください。ハードディスクの容量によってフォーマットに必要な時間は異なります（数分間）。
※バックアップを設定しているときは、フォーマットは実行できません。

警告：TeraStation(本製品) が他の TeraStation/LinkStation のバックアップデバイスとして設定されている場合フォーマットを実行しないで下さい。

※フォーマット形式について
以下の形式をフォーマット / または認識することができます。
<table>
<tr><th>フォーマット形式</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>EXT3
(USB ハードディスクのみ)</td><td>TeraStation に接続しなおして使用することがある場合におすすめします。
・読取 / 書込どちらもできます。
・ジャーナリングファイルシステム対応。
・フォーマットに時間がかかります (数分〜数十分)。
・フォーマット後に使用できる容量が XFS に比べて少ない。
・1 つのフォルダーにファイルの数が多くなるほどアクセスが遅くなります。
※ USB ハードディスクをパソコンに直接接続して読み出すには、付属の EXT3 リーダーをお使いください。</td></tr>
<tr><td>XFS
(USB ハードディスク /TeraStation 内蔵ハードディスク)</td><td>TeraStation で増設したハードディスクを使用する場合におすすめします。
・読取 / 書込どちらもできます。
・ジャーナリングファイルシステム対応。
・フォーマット後に使用できる容量が EXT3 に比べて多い。
・1 つのフォルダーにファイルの数が多くなってもアクセスが遅くならない。
古い LinkStation(HD-LAN、HD-HLAN、HD-HLWG、HD-HGLAN シリーズ等) では使用できません。
※パソコンに直接接続しても読み出しできません。</td></tr>
<tr><td>FAT32
(USB ハードディスクのみ)</td><td>ハードディスクをパソコンに接続しなおしてデータを確認したい場合におすすめします。
万が一 TeraStation が故障しても、Windows パソコンに接続して使用することができます。
・読取 / 書込どちらもできます。
・1 ファイル 4GB 以上のデータはコピー、バックアップ、レプリケーションできません。
・「：」など MacOS X で使用する一部の文字が使用できません。</td></tr>
<tr><td>NTFS
(USB ハードディスクのみ)</td><td>TeraStation の設定画面ではフォーマットできません。Windows 8/7/Vista/XP/2000、Windows Server2003/Server2008 に接続して使用することができます。</td></tr>
<tr><td>HFS+
(USB ハードディスクのみ)</td><td>TeraStation の設定画面ではフォーマットできません。読取専用です。
Mac OS X 10.3.9 以降に接続して使用することができます。
・読取専用 (バックアップ、レプリケーション時も書込不可)</td></tr>
</table>
※ 2.2TB を超える USB 接続ハードディスクを TeraStation に接続する場合、[GPT でパーティショニングする] を選択することをおすすめします。選択しない場合、容量が正しく認識されないことがあります。ただし、Windows 8/7/Vista、Windows Server2003 ServicePack1 以降、Windows Server2008、Mac OS X10.4 以降のパソコンおよび GPT 対応の TeraStation/LinkStation 以外では認識できなくなりますのでご注意ください。

※「通常」として設定しているハードディスクをメディアカートリッジとして使用するときは、[メディアカートリッジ] を選択してフォーマットしてください。
</td>
</tr>
</table>

ディスク	ディスクの取り外し	ハードディスクを選択し [ディスクの取り外し] をクリックすると、ハードディスクの取り外せる状態に移行します。
	ディスクの再認識	取り外し処理を行ったハードディスクを物理的に取り外して別のハードディスクに交換した後、TeraStation 本体の再起動することなく認識させたいときにクリックします。
RAID アレイ	RAID アレイ	構成ディスク： RAID を構成しているハードディスクを表示しています。RAID を設定するときは、使用するハードディスクをチェックし、RAID モードを選択して [RAID アレイの作成] をクリックします。 ・RAID1、RAID0 を設定（構築）するときは、ハードディスク 2 台以上を選択します。 ・RAID5 を設定（構築）するときは、ディスク 3 台以上を選択します。 ・RAID6 を設定（構築）するときは、ハードディスク 4 台以上を選択します。 ・RAID10 を設定（構築）するときは、ハードディスク 4 台以上 (偶数台) を選択します。 ・RAID51、RAID50 を設定（構築）するときは、ハードディスク 6 台以上 (偶数台) を選択します。 ・RAID61、RAID60 を設定（構築）するときは、ハードディスク 8 台以上 (偶数台) を選択します。 ※各 RAID モードには上記の台数のハードディスクが必要です。台数が不足している場合、該当の RAID モードに変更することはできません。 ・RAID 構成を削除するときは、[RAID アレイの削除] をクリックします。 ※ RAID の設定を変更・削除するとハードディスク内のデータも削除されます。大切なデータは必ずバックアップをとってから行ってください。 ※冗長性のある RAID モード (RAID1/5/6/10/50/51) を構築したときに、通常モードのハードディスクがある場合、[スペアディスクに設定] をクリックするとスペアディスクに設定できます。既にスペアディスクに設定されているときは [通常ディスクに設定] をクリックすると通常モードのハードディスクになります。
	障害発生時のシャットダウン	RAID アレイにエラーが発生したとき、データを保護するため自動的にシャットダウンします (RAID1/10/5/51/50/6/61/60 で使用しているときのみの機能で す。通常モード、RAID0 では機能しません)。初期設定では、「行わない」に設定されています。
	RAID アレイチェック速度	RAID アレイチェックの速度は次から選択できます。 高：RAID アレイの容量 1TB あたり、およそ 10 時間 中：RAID アレイの容量 1TB あたり、およそ 20 時間 低：RAID アレイの容量 1TB あたり、およそ 100 時間

<table>
<tr>
<td>RAID メンテナンス
[設定変更] をクリックすると設定を変更できます。</td>
<td>RAID メンテナンス</td>
<td>RAID メンテナンスとは、RAID1/10/5/51/50/6/61/60 を構築しているハードディスクのデータ領域に対して、全セクター読込チェックを行う機能です。
チェック中に発見した修復できるエラー※（不良セクター）は、自動修復します。
また、通常のファイル操作で発見された修復できるエラー※については、RAID メンテナンス機能を使用する、しないにかかわらず自動的に修復します。

<table>
<tr><td>状態</td><td>説明</td></tr>
<tr><td>修復できるエラー※</td><td>・RAID1/10/5/51/50/6/61/60 で構成されているデータ領域中のリードエラー（システム領域 RAID1 を含む）</td></tr>
<tr><td>修復できないエラー</td><td>・書き込みエラー
・RAID 管理領域のエラー
・ドライブパーティション情報領域のエラー
・ドライブ識別不良　など</td></tr>
</table>
RAID を構築するハードディスクの一つに、修復できるエラー※（不良クラスター）が多く検出された場合、該当ディスクを除いた状態で、縮退（デグレード）モードに自動的に移行します。
デグレードモードでは、データの保護状態ではないため、早急なエラーハードディスクの交換を強くお薦めします。
RAID メンテナンス機能を初めて実行する場合は、予め TeraStation 内のデータのバックアップを強くお薦めします。

RAID メンテナンス：
RAID メンテナンスを使用するかしないか設定します。
実行スケジュール：
RAID メンテナンスを実行するスケジュールを選択します。
・毎週 [日 - 土] 曜日
・第 1 [日 - 土] 曜日
・第 2 [日 - 土] 曜日
・第 3 [日 - 土] 曜日
・第 4 [日 - 土] 曜日
・第 1、3 [日 - 土] 曜日
・第 2、4 [日 - 土] 曜日
・毎月 1 日
[今すぐ実行] を選択して、[保存] をクリックするとすぐに実行できます。
開始時刻：
RAID メンテナンス機能を開始する時刻 (0 ～ 23 時) を選択します。
※ RAID メンテナンス機能実行を中止したいときは、[RAID メンテナンスを中止する] をクリックしてください。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">システム -LVM</th></tr>
<tr><td>論理ボリュームマネージャー (LVM)</td><td>ディスクを選択して［LVM 有効化］をクリックすると、選択したディスクの論理ボリュームマネージャー (LVM) を有効にします。
ディスクを選択して［LVM 無効化］をクリックすると、選択したディスクの論理ボリュームマネージャー (LVM) を無効にします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">システム -LVM ボリューム</th></tr>
<tr><td colspan="2">LVM ボリューム</td><td>［ボリュームの作成］をクリックするとボリューム追加画面になります。
ボリューム名をクリックするとボリューム編集画面になります。
ボリュームを選択して［ボリュームの削除］をクリックするとボリュームを削除します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">新規ボリューム
※ボリューム設定画面で［ボリュームの作成］をクリックすると表示されます。</td><td>ボリューム名</td><td>ボリュームの名称入力します。
※ UTF-8 換算で 12 bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。
※半角英数文字、-（ハイフン）が使用できます。
※先頭文字に数字や記号を使用することはできません。</td></tr>
<tr><td>ディスク領域</td><td>ボリュームを作成するハードディスク領域を選択します。</td></tr>
<tr><td>サイズ</td><td>ボリュームの容量（サイズ）を入力します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">システム - バックアップ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">Link/TeraStation 一覧を表示</td><td>検出済み Tera/LinkStation 一覧</td><td>ネットワーク上にある LinkStation/TeraStation（※）の一覧を表示します。
［更新］をクリックすると一覧を最新の情報に更新します。
※注意：ネットワーク経由のバックアップに対応した LinkStation/TeraStation のみ表示されます。</td></tr>
<tr><td>検索対象 IP アドレス</td><td>一覧に表示されない LinkStation/TeraStation（※）があった場合、または異なるネットワークにある LinkStation/TeraStation（※）を追加する場合は、LinkStation/TeraStation（※）の IP アドレスを入力し、［追加］をクリックします。追加した LinkStation/TeraStation（※）を選択し［削除］をクリックすると、登録を削除できます。
※注意：ネットワーク経由のバックアップに対応した LinkStation/TeraStation のみ登録することが可能です。</td></tr>
<tr><td>バックアップ先検索用パスワード
[設定変更] をクリックすると設定を変更できます</td><td>検索用パスワード</td><td>ネットワーク経由で他の TeraStation の共有フォルダーをバックアップ先にしたい場合に入力します。他の TeraStation で共有フォルダーに設定したバックアップ検索パスワードを入力します。入力しない場合、認証用パスワードを設定した共有フォルダーへのバックアップはできません。
※バックアップ元 TeraStation に入力できる「バックアップ先検索用パスワード」は一つのみです。
※「バックアップ公開用パスワード」が異なる共有フォルダーを、同時にバックアップ先として設定することはできません。
※「バックアップ先検索用パスワード」を入力によるバックアップ先共有フォルダーの検索は、バックアップ元以外の別の TeraStation にのみ有効です。

■設定手順
1．バックアップ先の TeraStation の設定画面にて共有フォルダーのそれぞれに、「バックアップ公開用パスワード」を設定します。
2．バックアップ元 TeraStation のバックアップ設定時、バックアップ先として表示させたい共有フォルダーに設定した「バックアップ公開用パスワード」と同一のパスワードを「バックアップ先検索用パスワード」に設定します。
3．バックアップ元 TeraStation にて、バックアップ設定を行います。
バックアップ先共有フォルダーは以下より選択することができます。※
・バックアップ元 TeraStation 内の共有フォルダー
・バックアップ元 TeraStation に接続されている USB ハードディスク
・バックアップ先 TeraStation 内の「バックアップ公開用パスワード」が設定されていない共有フォルダー
・バックアップ先 TeraStation 内の「バックアップ公開用パスワード」が「バックアップ先検索用パスワード」と一致している共有フォルダー
※共有フォルダー設定時に公開先として「バックアップ」が有効になっている必要があります。

■設定例
バックアップ先 TeraStation の設定
<table>
<tr><td>共有フォルダー名</td><td>share1</td><td>share2</td><td>share_free</td></tr>
<tr><td>バックアップ公 開用パスワード</td><td>111</td><td>222</td><td>なし</td></tr>
</table>

■設定例
バックアップ元 TeraStation の設定
<table>
<tr><td>バックアップ元 TeraStation の「バックアップ先検索用パスワード」に
「111」と設定した場合に表示されるバックアップ先共有フォルダー</td><td>表示</td><td>非表示</td><td>表示</td></tr>
<tr><td>バックアップ元 TeraStation の「バックアッ プ先検索用パスワード」に
「222」と設定した場合に表示されるバックアップ先共有フォルダー</td><td>非表示</td><td>表示</td><td>表示</td></tr>
<tr><td>パスワードを入れない場合に表示されるバックアップ先共有フォルダー</td><td>非表示</td><td>非表示</td><td>表示</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

バックアップ設定	バックアップ設定	[バックアップタスクの追加] をクリックして、バックアップタイマー設定を最大 8 個設定することができます。タスクをクリックするとバックアップ設定画面が表示されます。 TeraStation に保存されているデータを、時間設定して自動的に USB 外付けディスク、又は別の Link/TeraStation にバックアップします。 ※バックアップ機能を USB ディスクに対し使用する場合、USB ディスクのフォーマット形式は FAT32、XFS、EXT3 である必要があります（USB ハードディスクのフォーマット形式は TeraStation 設定画面［システム］－［ディスク］に表示されています）。 ※ USB ディスクのフォーマット形式が FAT32 の場合、バックアップ可能な最大ファイルサイズは 4GB となります。 ※バックアップ実行中は TeraStation に接続されている LAN ケーブルや、USB ディスクの取り外しは絶対に行わないでください。 ※バックアップ実行中に TeraStation の初期化、フォーマット、ディスクチェック、バックアップ設定、及び共有フォルダー・ユーザーグループ・ユーザーの追加・編集・削除を行わないでください。行った場合、エラー終了することがあります。 ※スケジュールバックアップ（毎日 / 毎週）でエラーが発生した場合、以降エラーの発生したバックアップタスクは実行されません。エラーの発生したバックアップタスクを再設定することで、バックアップを行うことができます。ただし、「エラー終了した場合も強制的に次回バックアップを実行する」のオプションが設定されている場合は、この限りではありません。

<table>
<tr><td rowspan="4">バックアップ設定
バックアップ設定画面で[バックアップタスクの追加]をクリックすると表示されます。</td><td>タスク名</td><td>任意のバックアップタスクの名称を決めて入力します。</td></tr>
<tr><td>バックアップ実行スケジュール</td><td>実行するスケジュールを[未実行][今すぐ実行][毎日][毎週][第1][第2][第3][第4][第1、3][第2、4][毎月1日]から選択します。</td></tr>
<tr><td>バックアップ実行日時</td><td>バックアップを実行する曜日や時刻を選択します。</td></tr>
<tr><td>バックアップ動作モード</td><td>バックアップ動作モードを下記から選択します。
・通常バックアップ
・上書きバックアップ（増分バックアップ）
・上書きバックアップ（差分バックアップ）
・履歴管理バックアップ
※「上書きバックアップ（差分）」を使用した場合、コピー元に存在しないコピー先のファイルは削除確認画面もなく削除されます。必要なデータを消失しないようご注意ください。
※通常バックアップ以外の動作モードはデータをバックアップ先に全て上書きします。必要なデータを消失しないようご注意ください。
※バックアップ実行中に、バックアップ元フォルダー内のファイルを操作（ファイル名の変更 / 削除など）しないでください。操作するとバックアップがエラー終了することがあります。このようなときは、エラー終了後、再度バックアップを行ってください。

それぞれの動作モードでの動 作内容は下記の表の通りです。
バックアップオプションで［バックアップ元が識別可能なフォルダーを作成する］を選択したかで動作は大きく異なります。
※バックアップ先フォルダーを「/target」とした場合の例で説明しています。
・USB ハードディスクにバックアップした場合、下記の「target」は「usbdisk*」と表示されます。
* には 1 ～ 2 の数字が入ります。
・TeraStation にバックアップした場合、下記の「target」はバックアップ先共有フォルダー名が表示されます。
・バックアップログはバックアップ元フォルダー内に以下の名前で作成されます。
backuplog（バックアップタスク番号）_（バックアップ開始時刻）.txt
例　2004 年 3 月 27 日 19 時 55 分の場合、”backuplog1_200403271955.txt” が作成されます。
※バックアップモードが、『上書き（差分）』設定時、バックアップの設定内容によってはバックアップ先のデータを削除する場合があります。

<table>
<tr><td colspan="4">■通常
（毎回すべてのファイルを上書きしないでコピーする）</td></tr>
<tr><td>バックアップ元が識別可能なフォルダー</td><td>バックアップ元フォルダー</td><td>バックアップ先フォルダー・結果</td><td>備考</td></tr>
<tr><td rowspan="2">作成する（強制）</td><td>/share</td><td>/target/（日時）*1/share</td><td></td></tr>
<tr><td>/share/folder</td><td>/target/（日時）*1/folder</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

バックアップ設定 バックアップ設定画面で [バックアップタスクの追加] をクリックすると表示されます。	バックアップ動作モード	(see below)

■上書き（増分）
（ファイルサイズ / タイムスタンプ *2 に変化のあるファイルのみ上書きコピーする）

バックアップ元が識別可能なフォルダー	バックアップ元フォルダー	バックアップ先フォルダー・結果	備考
作成する	/share	/target/_backups/share	
	/share/folder	/target/_backups/folder	
作成しない	/share	/target	
	/share/folder	/target	

■上書き（差分）
（ファイルサイズ / タイムスタンプ *2 に変化のあるファイルのみ上書きコピーする）
※バックアップ先にのみ存在するファイル / フォルダーは 削除されます。

バックアップ元が識別可能なフォルダー	バックアップ元フォルダー	バックアップ先フォルダー・結果	備考
作成する	/share	/target/_backups/share	
	/share/folder	/target/_backups/folder	*3
作成しない	/share	/target	
	/share/folder	/target/_backups/folder	*3

*1　日時には、バックアップ開始時刻を、yyyymmddhhmm 形式で作成 されます。
例　2004 年 3 月 27 日 19 時 55 分の場合、フォルダー名は "200403271955" と表示されます。
*2　ここでの「タイムスタンプ」とは Windows、Macintosh から確認が できる時刻情報ではなく、TeraStation が管理している時刻情報です。
*3　バックアップフォルダーより上の共有フォルダー内でファイルの差異があった場合は、ファイルが削除されることはありません。

■履歴管理バックアップ
バックアップ実行する度に管理情報を保持し、変更があったファイルのみコピーまたは削除します。変更のないファイルは以前のバックアップファイルから情報を引き出します (以前のバックアップしたファイルが破損した場合､参照できなくなります)。容量を抑えてバックアップしたいとき、ある時点の状態を参照できるようにしたい (スナップショットのような用途として使用したい) ときに用います。

[管理世代数] にはバックアップするデータを何回分保存しておくか選択してください (無制限、1 ～ 10)。

・履歴管理バックアップ先に指定できるのは TeraStation の共有フォルダーおよび TeraStation に接続した USB ハードディスクのみです。
・指定された共有フォルダー、USB ハードディスクの共有フォルダーは読み取り専用に変更されます。
・FAT フォーマットされた USB ディスクには正しくバックアップすることができません。

バックアップ設定 バックアップ設定画面で [バックアップタスクの追加] をクリックすると表示されます。	バックアップオプション	［バックアップ元が識別可能なフォルダーを作成する］ バックアップ動作モードで選択した項目によって動作が大きく異なります。動作モードに記載の表をご参照ください。 ［バックアップログファイルを作成する］ バックアップのログファイルを作成します。 ※バックアップ元が他の TeraStation/LinkStation の場合、バックアップログは作成されません。 ［暗号化転送を使用する］ バックアップする際データを暗号化して転送するかしないか選択します。 ※暗号化を有効にするとスループットが低下します。 ※バックアップ先が USB ハードディスクの場合、選択しないでください。 ［圧縮転送を使用する］ バックアップする際データを圧縮してから転送するかしないか選択します。 ※ネットワーク経由でバックアップをするときに、ネットワーク帯域がせまい場合に、圧縮転送すると転送速度が向上することがあります（データを 1 つのアーカイブにしてバックアップするわけではありません）。 ※バックアップ先が USB ハードディスクの場合、選択しないでください。 ［エラー終了した場合も強制的に次回バックアップを実行する］ エラー終了していても、次回のバックアップを実行します。 ［ゴミ箱 (trashbox フォルダー) をバックアップしない］ ゴミ箱の中のデータをバックアップ対象から外します。 ［変更がないファイルも上書きを実施する］ 変更されていないファイルも上書きします。
バックアップフォルダー バックアップ設定画面でタスク番号をクリックすると表示されます。	バックアップフォルダー	バックアップ元とバックアップ先の共有フォルダーを選択し［追加］をクリックします。 バックアップ先共有フォルダーは、以下のフォルダーを選択することができます。 ・［Link/TeraStation 一覧を表示］で表示される Link/TeraStation の共有フォルダー ・バックアップ元 TeraStation に接続されている usbdisk1、usbdisk2 ※フォルダー名に半角カタカナを含むフォルダーをバックアップ元フォルダーとして指定しないでください。含まれる場合、バックアップはエラー終了します。
レプリケーション	レプリケーション	[追加] をクリックすると、レプリケーション元の共有フォルダーとレプリケーション先の TeraStation/LinkStation の共有フォルダーを選択する画面を表示します。レプリケーション元に保存したデータは自動的にレプリケーション先の共有フォルダーに書き込まれます。 レプリケーションの設定を選択して、[削除] をクリックすると設定を削除します。 [再同期] をクリックするとレプリケーション先のフォルダーにレプリケーション元のデータを差分上書きコピーします。

システム - フェイルオーバー		
フェイルオーバー		[バックアップ機] にバックアップ先 TeraStation を選択し、バックアップ先の TeraStation の管理者パスワードを [管理者パスワード] に入力し、[設定] をクリックすると、フェイルオーバー機能を設定します。 ※フェイルオーバーの設定を無効にする際は、[構成解除] または [強制構成解除] をクリックしてください。 ※ファームウェアのアップデート等で一時的にフェイルオーバーの設定を無効にしたいときは、[メンテナンスモード] をクリックしてください。
サービス IP アドレス設定 (オプション) [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	イーサネット 1、またはイーサネット 2	サービス IP アドレスを使用する場合は、[サービス IP アドレス] から [使用する] を選択し、IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
	ホスト名	ホスト名を入力します。
	デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイが存在するとき、IP アドレスで指定します。
	優先 DNS サーバーアドレス	優先する DNS サーバーの IP アドレスで指定します。
	代替 DNS サーバーアドレス	代替の DNS サーバーの IP アドレスを指定します。
詳細設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	ポーリング間隔 (秒)	バックアップ機の TeraStation が、メインの TeraStation に稼動を確認する間隔 (秒) を入力します。
	生存チェック回数 (回)	バックアップ機の TeraStation が、メインの TeraStation が稼動しているか確認する回数を入力します。指定回数をチェックしても稼動が確認できないときは、バックアップ機がメインとして入れ替わって稼動します。

システム - メンテナンス		
メール通知設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。 [テストメール送信] をクリックすると設定されたメールアドレスへテストメールを送信します。	メール通知機能	メール通知機能を使用するか選択します。
	SMTP サーバーアドレス	SMTP サーバーアドレス（メールサーバーアドレス）を入力します。
	SMTP ポート番号	SMTP ポート番号を入力します。 ※指定のない場合は標準のポート番号（25）が使用されます。また、ユーザー認証方式を「使用しない」や「pop before smtp」に設定した場合は、この欄に入力した番号にかかわらず、標準のポート番号（25）が使用されます。
	ユーザー認証方式	ユーザー認証方式を、「POP before SMTP」「LOGIN(SMTP-AUTH)」「CRAM-MD5(SMTP-AUTH/CRAM-MD5)」から選択します。
	POP3 サーバーアドレス	POP3 サーバーアドレス (メールサーバーアドレス) を入力します。
	POP3 ポート番号	POP3 ポート番号を入力します。 ※指定のない場合は、標準ポート (110) が使用されます。
	SSL/TLS	ユーザー認証方式に「LOGIN(SMTP-AUTH)」「CRAM-MD5(SMTP-AUTH/CRAM-MD5)」を選択した際に、「SSL」「TLS」のどちらを用いるか指定します。
	ユーザー名	認証で使用するユーザー名を入力します。
	パスワード	認証で使用するパスワードを入力します。
	通知メール件名	送信するメールの件名を指定します。 ※半角文字にしてください。マルチバイト文字を使うと文字化けすることがあります。
	送信先メールアドレス	送信先メールアドレスを入力し、[追加] をクリックします。 ※最大 5 つのメールアドレスを送信先として登録できます。
	レポート	メール通知で送信する内容を選択します。 ・HDD 状態定期報告 ［HDD 状態送信時刻］で設定した時刻に TeraStation のハードディスク状態を送信します。 ・システム通知 システムの起動、シャットダウン時、RAID 構成変更時に送信します。 ・ディスクに異常が発生した時 TeraStation のハードディスクに異常が発生した時に送信します。 ・ファンに異常が発生した時 TeraStation のファンに異常が発生した時に送信します。 ・バックアップが完了した時 TeraStation のバックアップが完了した時に送信します。 ・クオータ警告通知 クオータの容量制限を超えているときは、HDD 状態定期報告で指定した時刻に送信します。
システムログ [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	システムログ	ログ情報転送 [使用する] を選択し [保存] をクリックするとシステムログを転送することができます。 ログの閲覧から [システムログ] [ファイル操作ログ (SMB)] [ファイル操作ログ (FTP)] を選択し、ログを閲覧することができます。[システムログ] [ファイル操作ログ (SMB)] は、[syslog サーバー IP アドレス] に syslog サーバーの IP アドレスを入力し、ログを転送することもできます。 ※ [ファイル操作ログ (FTP)] は syslog サーバーにログを書き出すことはできません。 [ログへのリンクを共有フォルダーに作成する] ログへのリンクを共有フォルダーに作成する [使用する] を選択し、対象共有フォルダーを選択すると、共有フォルダー内に、システムログを参照するためのリンクを作成します。選択した共有フォルダーの下に "log" というフォルダーが表示され、その中に各種ログファイルが表示されます。 ※ファイル操作ログは、内蔵ディスクに対するファイル操作のみ記録されます。USB ディスクへのファイル操作に関してはログに記録されませんのでご注意ください。

警告音設定 [設 定 変 更] を クリックすると 設定を変更できます。	警告音条件設定	［温度が超過した時］、［ディスクに異常が発生した時］、［ファンに異常が発生した時］、［UPS 電源異常を検知した時］から警告音を鳴らす条件を選択します。
表示パネル設定 [設 定 変 更] を クリックすると 設定を変更できます。	LCD 表示項目設定	TeraStation 前面の液晶ディスプレイ表示させる項目を [ホスト名 /IP アドレス]、[ディスクモード]、[時刻]、[HDD 使用量] から選択します。
	LCD 表示自動切替	液晶ディスプレイに表示させている項目を自動的に切り替えるかどうかを設定します。
	LCD バックライト設定	液晶ディスプレイのバックライトの明るさを 5 段階調整します。
	LED 輝度設定（通常時）	TeraStation 前面の LED ランプの明るさを 5 段階調整します。
	LED 輝度時刻連動設定	LED の輝度を時刻と連動して可変させる機能を使用するか選択します。例えば、昼間と夜間で別の輝度に設定することができます。
	LED 輝度設定（減光時）	減光時の LED ランプの明るさを 4 段階調整します。
	LED 輝度減光時刻	LED 輝度を減光設定にする時刻（0 ～ 23 時）を設定します。1 時間刻みの 00 分ごとに設定できます。
	LED 輝度通常時刻	LED 輝度を通常設定に戻す時刻（0 ～ 23 時）を設定します。1 時間刻みの 00 分ごとに設定できます。
再起動	再起動	［再起動］をクリックすると TeraStation が再起動されます。 ※データの破損を防ぐため、シャットダウン前に作業中のデータがないことを確認してください。
シャットダウン	シャットダウン	［シャットダウン］をクリックして TeraStation の電源を切ることができます。 ※設定画面から TeraStation の電源を ON にすることはできません。電源を ON にするときは、TeraStation の電源スイッチを押してください。 ※データの破損を防ぐため、シャットダウン前に作業中のデータがないことを 確認してください。
ファームウェアアップデート		[アップデート確認] をクリックすると最新のファームウェアのバージョンを確認します。 お使いのファームウェアが最新でない場合、[アップデート実行] をクリックすると、ファームウェアをアップデートします。

<table>
<tr><th colspan="3">システム - 電源管理</th></tr>
<tr><td rowspan="6">UPS 連動機能設定
[設定変更] をクリックすると設定を変更できます。</td><td>UPS 連動機能</td><td>この TeraStation に接続された UPS と連動する：UPS に直接接続した TeraStation で UPS に電源を連動させたいときに選択します。
ネットワーク上の他の TeraStation に接続された UPS と連動する：同一ネットワーク内の他の TeraStation の電源に連動させてシャットダウンさせたいときに選択します。
連動しない：UPS 連動機能を使用しないときに選択します。</td></tr>
<tr><td>連動元 TeraStation IP アドレス</td><td>UPS 連動機能で「ネットワーク上の他の TeraStation に接続された UPS と連動する」を選択した場合、連動元の TeraStation の IP アドレスを入力します。</td></tr>
<tr><td>UPS 接続方式</td><td>UPS の接続方式を選択します。
※［USB 接続 /APC 製 (またはオムロン製)］は、APC 製 USB 接続 UPS を接続している状態でしか設定できません。
※接続する UPS の型番 / ケーブルによって選択する項目は異なります。詳しくは弊社ホームページ (buffalo.jp) をご参照ください。</td></tr>
<tr><td>電源異常時の TeraStation シャットダウン条件</td><td>電源異常が何分続いたらシャットダウンするかを設定できます。
または、UPS から "Battery Low" を検出した場合にシャットダウンするよう設定することもできます。
※ Battery Low によるシャットダウンは USB 接続 UPS 使用時のみ利用できます。</td></tr>
<tr><td>TeraStation シャットダウン後の UPS 動作</td><td>TeraStation のシャットダウン後、UPS をシャットダウンするかを設定します。</td></tr>
<tr><td>UPS リカバー</td><td>UPS への AC 電源供給復旧後、自動的に TeraStation を再起動します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">タイマー ON/OFF
[設定変更] をクリックすると設定を変更できます。</td><td>タイマー間隔</td><td>タイマー ON/OFF 設定を使用する間隔を [使用しない][毎日][毎週] から選択します。
[曜日指定] を選択した場合、曜日のチェックボックスをクリックして曜日を指定してください。
タイマーは 1 ～ 3 の 3 つまで設定することができます。</td></tr>
<tr><td>起動時刻</td><td>スタンバイ状態から通常の状態に復帰するときの起動時刻を設定します。
時刻は 0:00 から 23:45 まで設定可能です。</td></tr>
<tr><td>終了時刻</td><td>通常の状態からスタンバイ状態に移行するときの終了時刻を設定します。
時刻は 0:00 から 27:45 まで設定可能です。
※終了時刻を起動時刻より早い時刻または同じ時刻に設定することはできません。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">システム - 初期化</th></tr>
<tr><td>初期化</td><td>TeraStation の初期化を実行</td><td>[TeraStation の初期化を実行] をクリックすると、次の設定が初期化されます。
TeraStation 名、説明、NTP 設定、ワークグループ設定、ネットワークサービス、共有サービス設定、共有フォルダーの設定、USB ディスクの設定、RAID メンテナンス、タイマー ON/OFF、共有フォルダーのアクセス制限、ユーザー設定、ユーザーグループ、メール通知機能設定、UPS 連動機能設定、バックアップ設定、管理者ユーザー名・パスワード、ネットワーク設定 (IP アドレス、サブネットマスク等)、Time Machine、Web アクセス、DFS、ダイレクトコピー、NFS、TeraSearch、警告音、表示パネル、言語設定、システムログ、プリントサーバー、Web サーバー、MySQL サーバー、RAID アレイ障害設定 、SNMP 機能、AmazonS3 連携機能</td></tr>
<tr><td>ディスク完全フォーマット</td><td>ディスク完全フォーマット</td><td>［TeraStation のディスク完全フォーマットを実行］をクリックすると、TeraStation のハードディスク内のデータを完全に消去します。
※消去したデータを復旧することはできません。
※消去実行中は TeraStation の設定を変更することはできません。</td></tr>
</table>

その他

その他 -Web アクセス		
フォルダー設定	Web アクセス フォルダーの編集	共有フォルダー名をクリックすると編集画面になります。 [共有フォルダー名]、[共有フォルダーの説明] には Web アクセス機能で公開する TeraStation のフォルダー情報が表示されます。 [Web アクセス] では、以下のアクセス制限を選択できます。 無効： 共有フォルダーを公開しません。 アクセス制限なし： 誰でも共有フォルダーをアクセス（閲覧）できるようにします。 登録グループ / ユーザーのみ TeraStation に登録したグループ / ユーザーのみアクセス（閲覧）できるようにします。 共有フォルダー設定と同期 共有フォルダー画面で設定したアクセス制限と同じ制限とします。共有フォルダー画面でアクセス制限を設定していない場合は、表示されません。
Web アクセスサービス (簡単設定) [Web アクセス簡単設定] をクリックすると設定を変更できます。	Web アクセスサービス	[使用する / 使用しない] Web アクセス機能を使用するかどうか設定します。 [BuffaloNAS.com ネーム] "BuffaloNAS.com" サーバーへ登録する TeraStation のニックネームを入力します。 ※ BuffaloNAS.com にアクセスした際に入力する名称です。実際の TeraStation の名称と異なっていても問題ありません。 ※一定時間 TeraStation をインターネットから切り離すと、BuffaloNAS.com サーバーからネーム登録が削除されます。
Web アクセスサービス (詳細設定) [Web アクセス詳細設定] をクリックすると設定を変更できます。	Web アクセスサービス	[Web アクセス] Web アクセス機能を使用するかどうか設定します。 [HTTPS/SSL 暗号化] SSL 暗号化を使用し、より安全な転送をするかどうか設定します。 [BuffaloNAS.com 登録機能] 簡単に TeraStation にアクセスできるように、”BuffaloNAS.com” サーバーを利用するかどうかを設定します。 Web アクセス共有 フォルダー内のファイルが ”BuffaloNAS.com” サーバーに残ることはありません。 [BuffaloNAS.com ネーム] “BuffaloNAS.com” サーバーへ登録する TeraStation のニックネームを入力します。 ※ BuffaloNAS.com にアクセスした際に入力する名称です。実際の TeraStation の名称と異なっていても問題ありません。 ※一定時間 TeraStation をインターネットから切り離すと、BuffaloNAS.com サーバーからネーム登録が削除されます。 [BuffaloNAS.com キー] "BuffaloNAS.com" サーバーへ登録する TeraStation のニックネームを保存 / 使用するためのキーを入力します。 [その他 DNS サービス ホスト名] “BuffaloNAS.com” サーバーを利用せず、一般的な DNS サービスを利用する場合はそのホスト名を入力します。 [ルーター自動設定機能 (UPnP)] UPnP を使用して、ルーターと TeraStation との転送設定を自動で行うかどうかを選択します。ルーターが UPnP に対応していない場合や、正しく設定できない場合は手動での設定を試みてください。

その他 -Web アクセス		
Web アクセスサービス (詳細設定) [Web アクセス詳細設定] をクリックすると設定を変更できます。	Web アクセスサービス	[ルーター外部ポート番号] UPnP を使用せず、手動での設定をする場合に使用するルーター側の外部ポートを入力します。 ルーター側の外部ポートを TeraStation の内部ポート番号に転送します。 [内部ポート番号] TeraStation で Web アクセス機能を稼動する内部ポート番号を設定します。 [セッション排他] [使用する] に設定すると、Web アクセス機能に同一ユーザーが同時ログインできません (後からログインしたユーザーが優先されます)。 [セッション時間] 無操作でもログイン状態を保持する時間を分単位で、 1 ～ 120 の範囲で入力します。または、[セッション時間無制限] を選択することもできます。 ※ [セッション排他] を [使用する] に設定した場合、[セッション時間無制限] は選択できません。

その他 - プリントサーバー		
プリントサーバー [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	プリントサーバー	Windows 用プリントサーバー機能を使用する / 使用しないを選択します。 [プリンタージョブの削除] をクリックするとプリンタージョブを削除します。

その他 -Time Machine		
Time Machine [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	Time Machine	Mac OS X 10.5 以降の Time Machine 機能で TeraStation をバックアップ先にするときは、[使用する] を選択します。[対象共有フォルダー] でバックアップ先として使用する共有フォルダーを選択します。

その他 - ウイルスチェック (ウイルスチェック機能搭載モデルのみ表示されます。)		
フォルダー設定	フォルダーの編集	表示されている共有フォルダー名をクリックすると各共有フォルダーごとにリアルタイム検索、予約検索、手動検索において検索対象にするかどうかを選択できます。
ウイルスチェック [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	ウイルスチェック	[ウイルスチェック画面を開く] TeraStation のウイルスチェック画面を表示します。 [ウイルスチェック設定情報の初期化] TeraStation のウイルスチェック機能の設定情報を初期化します。 [ウイルスチェック機能] ウイルスチェック機能の有効 / 無効を設定します。 [隔離フォルダー] ウイルスが見つかった際の隔離フォルダーを選択します。

その他 -Web サービス連携		
AmazonS3 連携 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	AmazonS3 連携機能	Amazon が運営するインターネット用の有償ストレージサービス Amazon Simple Storage Service(Amazon S3) に TeraStation からアクセスしたいときは、[使用する] を選択します。
	対象フォルダー	連携する共有フォルダーを選択します。選択対象フォルダーは AmazonS3 連携機能が内部で使用するものです。選択したフォルダー内にファイルが増えたり、使用容量が自動で増大したりするものではありません。
	接続モード	接続モードを [STANDARD][RRS] から選択します。
	接続プロトコル	接続プロトコルを [http][https] から選択します。
	AmazonS3 のバケット名	AmazonS3 のホームページで AmazonS3 のアカウントを作成した際に登録したバケットのバケット名を入力します。
	AmazonS3 のアクセスキー ID	AmazonS3 のホームページで AmazonS3 のアカウントを作成した際に登録したアクセスキー ID を入力します。
	AmazonS3 のシークレットアクセスキー	AmazonS3 のホームページで AmazonS3 のアカウントを作成した際に登録したシークレットアクセスキーを入力します。